

平成26年10月31日

愛知県 地域包括ケアモデル事業、在宅医療連携拠点推進事業 合同報告会

受託事業名 (愛知県在宅医療連携拠点推進事業)

# ハナミズキプロジェクト

名古屋市 昭和区医師会

医療法人生寿会 かわな病院

# 当地域の特徴 1【強み／それを活かした活動】

- 医療資源の充実
  - ・一定数の往診、訪問診療を行う診療所、24時間対応訪問看護事業所がある
    - ⇒ 在宅主治医・副主治医マッチングシステムを構築
  - ・さまざまな機能をもつ8病院がある
    - ⇒ 病院協議会を立ちあげ、在宅医療のバックアップを検討
  - ・認知症に取り組む診療所、医師が多い
    - ⇒ 区内のドクターが相談できる窓口として、昭和区認知症相談専門医を指定、在宅認知症患者対応システムを構築

## 当地域の特徴 2【強み／それを活かした活動】

- 先行した在宅支援体制の存在
  - ・ 昭和区歯科医師会による「在宅対応歯科医院」マップを活用した積極的な在宅支援体制に対する取り組み
    - ⇒ 在宅主治医・副主治医マッチングシステム構築の参考になった
- 既存のシステム・資源の活用
  - ・ 昭和区社会福祉協議会第3次地域福祉活動計画
    - ⇒ 親子向け在宅医療の啓蒙企画の共催
  - ・ 昭和区主任ケアマネの会
    - ⇒ ファシリテーター養成を目的とした、ケアマネジャーレベルアップ勉強会の定期開催をコラボレーション

## 当地域の特徴 3【弱み／実施困難】

- 事務局基盤の脆弱さ
  - ・ 医師会主導でありながら、地域のいち病院が事務局を担当
    - ⇒ 各方面への理解がなかなか得られなかった
    - ⇒ 予定していた連携の開始時期が遅延することに
- 区内にある様々な団体の存在と活動
  - ・ 地域の中で必要な資源、仕組みが複数確立されている
    - ⇒ わざわざ新しい連携（この事業）が必要なのか疑問の声も挙がった

# 担当組織 現状と課題

## ○事務局

- ・昭和区医師会長
- ・担当副会長 2名、
- ・実務担当 9名（医師 1名,看護師 1名,CM 1名,MSW 2名,事務 4)

⇒ 事業の拡大に伴う、必要資料の増大、実務担当者のマンパワー不足

⇒ 潤沢な資金力（事業費）で地域にある既存の事業との相乗り・共催を働きかけ不足するマンパワーを補おうとしている

# 担当組織 現状と課題

## ○専門職団体代表者会議

- ・区内各団体 約20名

行政,社協,医療機関,介保事業者・施設,ワーカー協会の各代表等で構成された意思決定機関として位置づけ

⇒ 事業におけるすべての計画について協議し、承認を行う

⇒ スピード不足

## ★在宅医療連携拠点に**医師会の役割は必要不可欠。**

行政と医師会がともに事務局としての役割を認識し、事業に取り組む体制づくりの検討を！

# 地域の顔の見える関係作り

## ○アウトリーチ

- 地域の基幹病院（名古屋第二赤十字病院）各種医療機関、介護保険事業所・施設、行政・保健所、社協等の代表者、幹事施設へ説明と協力依頼
- 平成26年1月～昭和区医師会長、副会長、運営事務局担当で往訪
  - ⇒ 新しい事業・組織図、タスクについて、事業計画ロードマップを説明

# 地域の顔の見える関係作り

○そこで得られた意見

- ・結局何を協力してほしいのかわからない
- ・連携の仕組みは必要だが、どこが音頭をとるのかよくわからない
- ・多職種で共に地域課題について考えるような機会がない
- ・知り合いになる具体的なきっかけが無い
- ・在宅医療はある一部が頑張っているという印象



# 地域の顔の見える関係作り

地域に多くの事業者、専門職がいることは認識しているが、  
共に地域の課題について協議、情報交換する機会がない



**多職種が連携し力を合わせれば  
地域での在宅療養支援を底上げできる！  
…はず！**

# 地域の顔の見える関係作り

○多職種連携会の開催

・ハナミズキプロジェクトと命名

・3ヶ月に1回ペース

⇒ 地域初の医療・介護福祉の関係者が一緒に考える場

# 地域の顔の見える関係作り

○第1回多職種連携会 ハナミズキプロジェクト

4/26 昭和区役所講堂

【テーマ】

「地域包括ケアにおける在宅医療と多職種連携とは」

⇒ 参加約200名

専門職や事業者の多職種連携への関心の高さが伺えた

⇒ 連携会後の懇親会にも、100名程度の参加があり、  
ざっくばらんに知り合えた

【反省】

・参加者が多く、グループディスカッションの時間が不足した

# 地域の顔の見える関係作り

○第2回多職種連携会 ハナミズキプロジェクト

7/26 名古屋第二赤十字病院 研修ホール／看護研修室

【テーマ】

「生きること 食べること」

⇒ 参加約180名

連携の継続と情報共有に対する積極的な姿勢がみられる

テーマを絞った構成にすることで活発な意見交換ができた

⇒ グループワークでは積極的なディスカッションが各テーブルで見受けられた

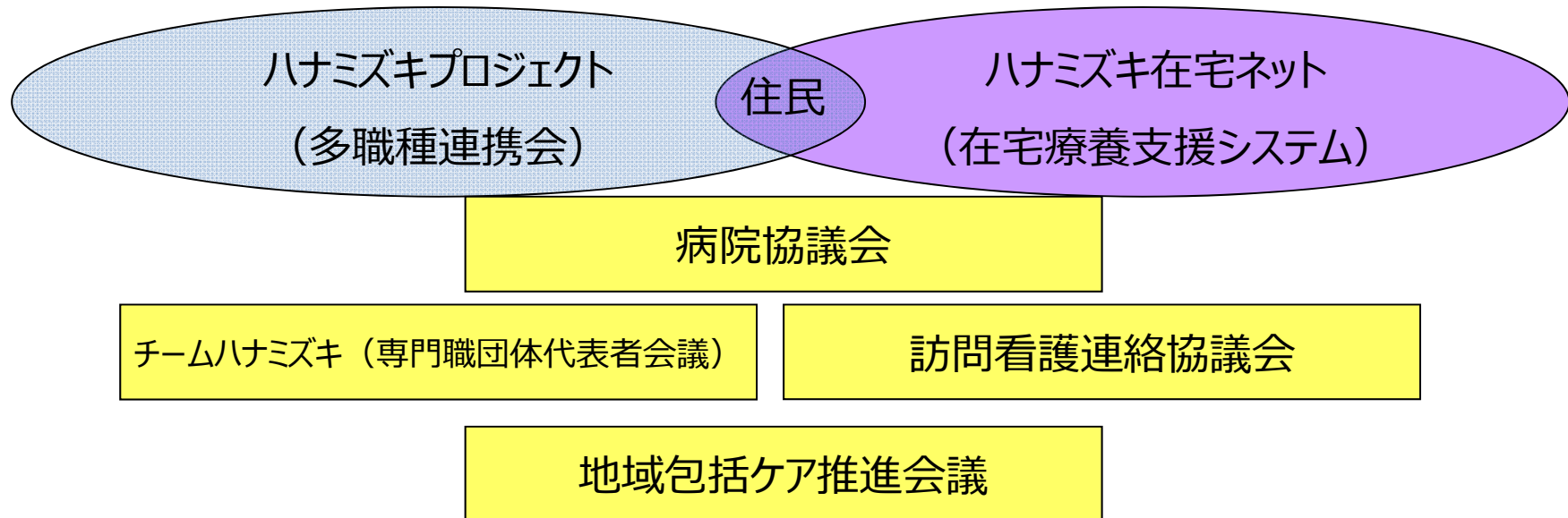
⇒ 名古屋第二赤十字病院の全面的なご協力のもと実施できた

【反省】

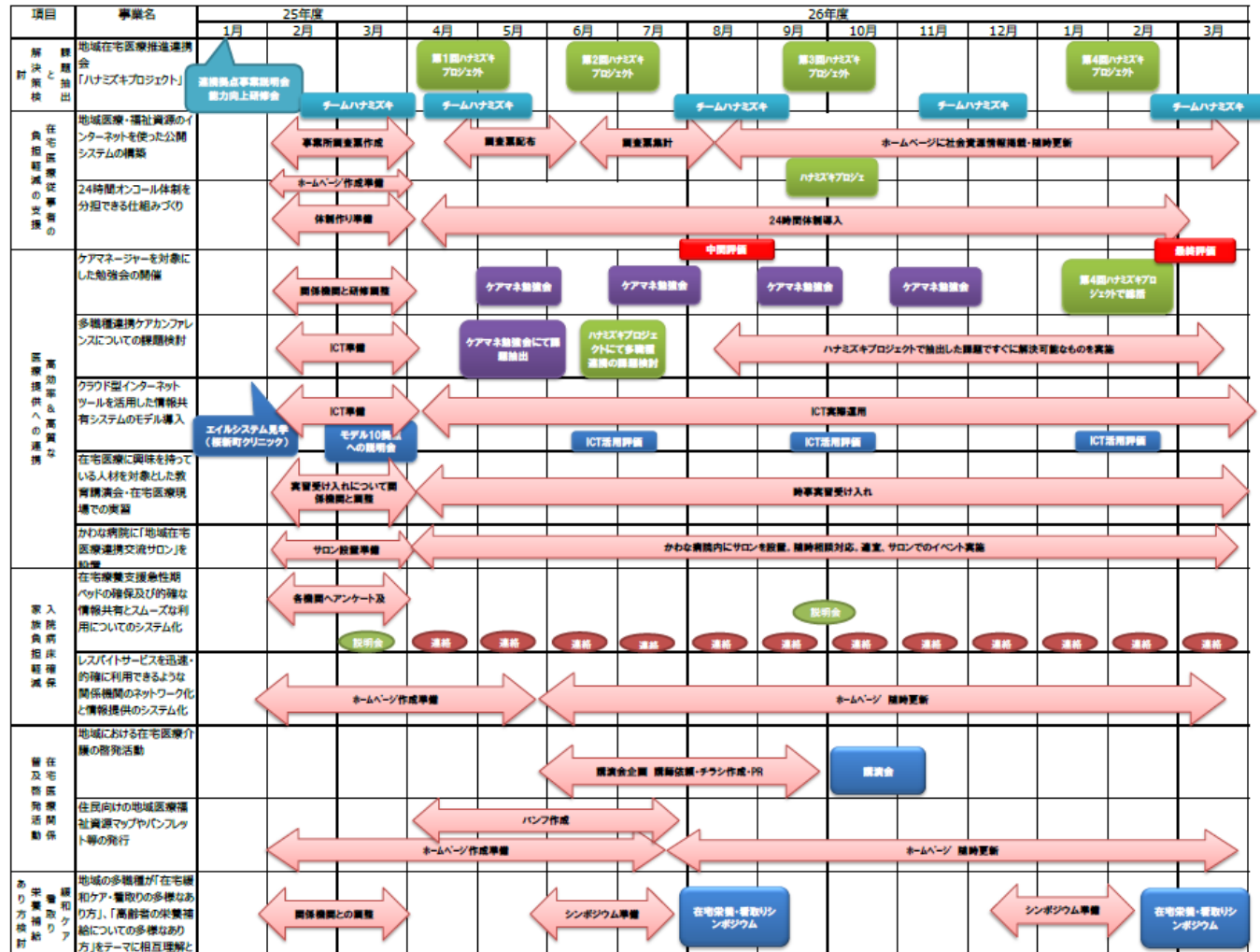
・連携会後の懇親会は、前回よりも参加者減ってしまった

# 地域の運命共同体の設置と課題

行政機関の参加が非常に消極的  
地域課題を検討協議する場がない  
各組織間の情報共有までには  
さらなる機会の拡充が必要



# ハナミズキ ロードマップ



# 地域の課題と解決策

## ○事業開始前

### 事務局が捉えていた課題

- ・同業他事業所間ですら顔の見える関係が構築されていない
- ・情報共有や連絡調整すらもうまく進められていない

## ○事業開始後

### 見えてきた優先度の高い取組課題

- ・課題解決のために取り組んだ情報共有ツール（ICT）等に対して思うように広がらなかった
- ・必要だと認識しているが忙しい日常業務の中で、変化や新たなシステムを受容れる体制が取れない

# 地域の課題と解決策

グループディスカッションなどを通じて、  
区内の在宅医療に取り組む多職種連携・交流を考える場を提供

多職種連携会やケアマネ・カフェ、訪問看護連絡協議会などの活動を経て、  
区内の歯科衛生士による勉強会を立ち上げる動きも生まれている

多職種連携とともに、同職種で集まり、その強み・弱み、  
在宅医療への理解を深める活動を行うことも、  
連携促進の因子になりうるが見えてきた



# 前半の振り返り と 改善策

## ○業務量と事務局体制

- ・事業が進行するにつれ、取り組む活動が多系列で細分化し、業務量が増大
- ・事務局担当者のオーバーワーク状態が恒常化し、活動の質が低下
- ・複数企画を担当しながら、本来業務（病院職員業務）を行うことが困難

## 《改善策》

- ・拠点事業専任スタッフを配置する
  - ⇒ 名古屋市医師会や昭和区医師会、もしくは名古屋市の予算により、次年度以降専任の事務局スタッフを配置する（予算が必要）

# 前半の振り返り と 改善策

## ○アウトリーチと地域の情報収集

### ・事業専用ホームページ立ち上げ

⇒ 半年経過し「ハナミズキプロジェクト」で検索すると、検索エンジンのトップに表示されるようになった

⇒ 介護・福祉関係社会資源の情報収集と発信量が不足している

### ・ハナミズキ在宅ネット立ちあげ

⇒ 9月から試行開始し、現在データ収集中

⇒ 収集したデータは、各種会合、研修、ホームページ等で報告

## 《改善策》

### ・行政や地域包括支援センター等と共同し不足情報を補いあう

# 前半の振り返り と 改善策

○ロードマップに基づく進捗状況

- ・専門職代表者会議（チームナミズキ）の日程を早めに決定し、内容を議決のうえ、各種企画を進めている
- ・専門職・介護者向けサロン、訪問診療・訪問看護への同行研修の仕組みづくりには未着手、それ以外は若干の前後はあるが、検討・実施中
  - ⇒ 専門職向けサロンが必要なのかを再度検討
  - ⇒ 専門職団体の協議会や勉強会を継続開催したり、新たな同職種体の新規立ち上げを支援し、同一専門職で気軽に相談しあえる横のつながりを創るほうが、サロンよりも効果的？

みなさんに知ってほしい！

## 当地域の特徴的活動

### ○ハナミズキ在宅ネット

- ・地域の医療機関や介護事業所、また、専門職がゆるやかにつながり、地域で在宅療養を必要とする住民や、在宅医療・介護従事者をフォローするシステム
- ・主治医・副主治医のマッチング、医療者、介護者へのバックアップ、病院による在宅療養支援、認知症対応支援の4つのシステムから成り、昭和区内の関係機関同士が、気軽に相談できるような体制をつくる

みなさんに知ってほしい！

## 当地域の特徴的活動

### ○いりょうとかいごのおやこ探検隊

- ・これからの地域の医療・介護の担い手である若い世代へのアプローチ
- ・地域住民（昭和区社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画 策定メンバー）と協働して企画
- ・高齢者疑似体験、医療介護施設見学、介護食調理実習等を体験することで 高齢社会、在宅医療介護をより身近に考えるきっかけをつくる

# 来年度に向けて

今年度の名古屋市内3補助事業者と、  
名古屋市モデル事業（中村区）を加えた、  
市内4拠点の実践結果をもとに、  
名古屋市全体の医療・介護連携の統一連携モデルをつくるための  
お手伝い

- ・情報共有 I C Tシステム
- ・24時間365日医療体制、
- ・在宅主治医マッチングシステム など

# お問い合わせ窓口

名古屋市 **昭和区医師会**

在宅医療連携拠点推進事業

事務局担当：医療法人生寿会かわな病院

窓口担当者	松田・守口・高野
電話番号	052-761-5043
メールアドレス	info@hanamizuki-it.net
ホームページ	<a href="http://hanamizuki-it.net/">http://hanamizuki-it.net/</a>
担当事務局所在地	〒466-0807名古屋市昭和区山花町50番地